



K.C. News

京都知福協だより

京都知的障害者福祉施設協議会

京都市上京区猪熊通丸太町下ル中之町519 京都社会福祉会館202

<http://kyotifuku.jp>

発行人 樋口幸雄

- ◆ 談論風発、そして第58回全国職員研究(京都)大会へ … 1
- ◆ 平成30年度全国知的障害関係施設長等会議に参加して … 2
- ◆ 第23回クラシックコンサートの集いを終えて …… 3
- ◆ シリーズこんにちは …………… 4
- ◆ Spotlight …………… 5
- ◆ 京都知福協・第7回地域支援部会 開催報告 …… 5
- ◆ 平成30年度会議・研修・行事案内 …………… 6
- ◆ 2017年度収支決算報告 …………… 7
- ◆ 2018年度京都知的障害者福祉施設協議会組織体制 … 8
- ◆ 平成30年度広報部会部員紹介 …………… 8
- ◆ ちょっとお・し・え・て …………… 8



児童発達支援センターひなどり学園
園外宿泊行事
「琵琶湖湖水浴(於:近江舞子)」

談論風発、そして第58回全国職員研究(京都)大会へ

京都知的障害者福祉施設協議会 会長 樋口幸雄



今回の西日本を中心とする豪雨災害で亡くなられた多くの方々、また被災された皆様に心からのお悔やみとお見舞い申し上げます。被災地域が広範囲であることから、日本知福協加盟の

事業所も数多く被災されています。先般、京都知福協において、義援金募集を始めたところですが、被災地域の速やかな復興のためにも京都DWATのチームを中心とする人的支援にも積極的な支援をお願いいたします。

去る4月の総会に於いて、平成30年・31年度新役員体制が承認され、引き続き会長職につくことになりました。また、各委員会・部会にも新しい委員を多く迎えることができ、世代交代を進めながら、新しい福祉の時代にふさわしい魅力ある「京都知福協」を目指していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

施設事業所における虐待の根絶に向けて

昨年、日本知福協会員の責務並びに人権侵害等が発生した場合の対応を定めた会員準則が改正されました。第2条に「会員は事業所を利用されている人たちが、一人の人間として享受すべき尊厳を確固たる倫理感をもって守らなければならない。」と、記されています。これは障がい福祉に関する者の使命であり、利用者との絶対的な約束です。施設事業所における虐待は知的障がい者支援の全否定であり、あまたの先人が築いてこられた知的障がい者福祉の崩壊につながるものです。京都知福協は現場の視点に立ち、虐待防止に向けて施設事業所の支援環境や支援者のメンタルヘルスにも踏み込んだ虐待防止に取り組みたいと思っております。

「共生型サービス」の創設について

地域の中で、だれもが安心して暮らし続けることができる仕組みづくりにおいて、共生型サービスが創設されました。これは高齢障がい者の介護保険優先原則(いわゆる65歳問題)がある中でより現実的な施策の一つと捉えています。現在京都府におい

て、同サービスについての基準条例に関する意見交換会が開催されています。障がいのある当事者の立場に立つて、共生型サービスが実施された際にも、従来の福祉サービスとの継続性や質の担保が図られますように、また、実態を踏まえた独自の施策を条例に盛り込んでいただくように積極的に働きかけたいと思っております。

報酬改定の影響調査

今回の報酬改定は医療・介護・障がいの総合的な再編という潮流の中で行われたもので、今後の福祉施策の在り方を左右する転換点となります。改定によって事業の継続性や支援の質的低下を招いていないか、その影響調査を早期に実施、検証し、その結果を京都府・市への予算要望等を通して、国に挙げていきたいと思っております。

すでに次期報酬改定の検討作業が始まっております。いよいよ、最大の事業所数・利用者数を担っている就労継続支援B型・生活介護におけるサービスの質を評価する指標・方法について、また入所者の高齢化等を背景に、今後の更なる重度化・高齢化を踏まえた障がい者支援施設についての評価・検討が組上のります。

こうした時期に、それぞれの事業の本来の在り方について、利用者・家族、そして支援者がともに納得し、共感できる理想の支援をそれぞれの立場から、本音で語り合っていたら、持続可能な安定したサービスが確立することを願っております。

全国知的障がい福祉関係職員研究大会の京都開催について2020年、第58回知的障がい福祉関係職員研究大会が京都で開催されることが決定しています。当大会は第1回が京都で開催されたことから、全国を一巡し再び京都で開催される記念すべき大会になります。これからの共生社会への扉を開くメッセージを全国に届ける意義ある大会にしなければならぬと考えております。既に、京都知福協内に大会準備に向けた作業部会を、中西副会長を中心に発足させ、9月5日に第1回作業部会を開催したところです。会員の皆様にはこれまで以上に本会の活動にご参加いただきますよう、お願いいたします。

平成30年度全国知的障害関係施設長等会議に参加して

社会福祉法人なつな学園

かしの木学園 施設長 滝沢 一人

去る平成30年7月2日、3日の2日間
にわたり、全国知的障害関係施設長等
会議が「これからの障がい福祉と事業者
が目指すもの」をテーマに開催されまし
た。

1日目の冒頭に、岡山大学大学院教授
西田和弘氏より「今、障がい福祉に何が
求められているのか」と題し、一昨年の
社会福祉法人制度改革の検証と本年度報
酬改定を踏まえた基調講演がありました。
会計監査人制度の段階的施行につい
ては、平成33年には収益10億円まで下げ
られる中、該当法人のみならずその後の
動向にも注視が必要であること、地域に

おける公益的な取組については、ステー
クホルダー（利害関係者）の概念を利用
者・ご家族ではなく、地域住民も加えた
認識に改める必要性を強く訴えられまし
た。

本年度報酬改定の特徴として、相談支
援の充実、特定のサービス種別に対する
厳しい改定について触れられました。も
ともと高い収支差率にあった、放課後等
デイサービス、就労系サービスについて
は全国で2割程度の事業所の経営難が叫
ばれ、A型事業所の倒産・撤退が相次ぐ
中、利用者の大量解雇が問題として指摘
されました。そもそもまっとうな経営・
サービスを行っている事業所が頑張れな
いのであれば、制度設計自体に問題があ
ると言わざるを得ないと感じました。今
後の宿題とされている「支援の質」を国
はどのように評価しようとしているの
か、「支援の質」とは誰にとつてのもの
なのか、行政評価が利用者評価か、しっ
かり見つけていく必要を改めて感じまし
た。

次に、行政説明として、厚生労働省社
会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課
課長 内山博之氏より「障害保健福祉施
策の動向」と題してお話を伺いました。



井上博会長

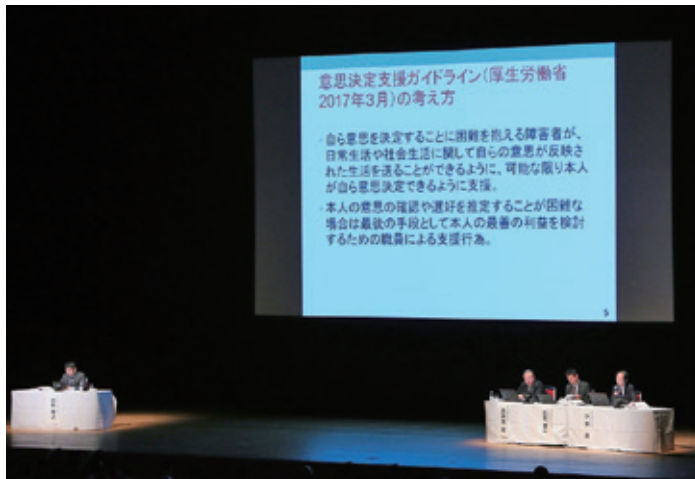
3年後の見直
しと報酬改定
が同時期にあ
り、また報酬

改定については医療・介護・障害のトリ
プル改定となったことにより、国民の関
心が高まってきているとの
指摘があり、支援の質の向上が必要であ
るとの認識が改めて示されました。財政
難の中、今後の報酬面にメリハリをつけ
ること、支援の質と報酬の連動が厚労省
の基本的な考え方になっていることを実
感した次第です。

次に、シンポジウムとして「今後の障
害福祉サービスを考える」と題して、3
名のシンポジストより現状認識と課題の
明示を中心に進められました。話された
ポイントとしては、①意思決定支援を含
めた専門性・支援の質、②地域とのつな
がりについてです。①支援の質について
は、行政評価と利用者評価に乖離がある
場合、構造や結果だけが取り沙汰される
ことなく、プロセスこそ大切にされるべ
きだとの議論や、病院機能評価の導入の
是非等について話されました。答えを待
つのではなく、自身として質の評価に何
らかの取り組みが必要だと痛感していま
す。②地域とのつながりについては、営
利法人とは競い合うのではなく、まさに
地域性における違いを明確にしていくな
どこそが大切であるとの意見が印象的で
した。

2日目の分科会では、第1分科会「障が
いのある子どもの最善の利益を考える」
課題解決のための支援のあり方・システ
ム・人材育成を考える」。第2分科会
「地域における社会福祉法人の役割」。第
3分科会「これからの福祉サービスのあ
り方―居住支援・日中支援が目指すもの

シンポジウム



」。第4分科会「地域共生社会の実現
を担う就労支援事業所の役割を考える」
というそれぞれのテーマが設けられまし
た。多角的な視点での分科会の機会をい
ただいたと思います。

時はまさに社会福祉法人改革、報酬改
定、障害者総合支援法3年後の見直しと
重要な岐路に立たされています。次の改
定に向けた多くの宿題、とりわけ支援の
質、地域における公益的な取り組みから、
地域共生社会の実現に向けた取り組みに
ついてどう答えを出していくか、厚労省
の顔色をみながらではなく、私たち自身
が問われた課題に積極的に対応を見出し
なければならぬと、改めて痛感
した2日間でした。

開会式



第23回 クラシックコンサートの集いを終えて

行事・文化部会 副部会長／飛鳥井ワークセンター センター長 川西 恒



指揮者の田久保裕一さん（中央）

平成30年5月23日、京都コンサートホールで、京都知福協主催の「第23回クラシックコンサート」の集い（京都市交響楽団演奏会）が京都府下より、当協議会加盟の37施設の利用者・職員・家族、他の障害者関係者3団体一般市民の来場者を合わせて約1200名が一堂に会し開催されました。会場等の事情があり一時中断後の今年は京都コンサートホールで復活して2年目、午後の開場時間にはこの日の開催を待ち望んでいた利用者の皆さんが笑顔で続々と入場されました。

コンサートは、会場の皆さんにおなじみの田久保裕一氏の司会と指揮で始まり「ディズニー・シンフォニック・パレード」からスタート。ザワザワした会場がなじみのあるディズニーの音楽に合わせて手拍子で一つになりました。最後のヴェルディ「凱旋行進曲」まで途中休憩なしの80分、全曲フルオーケストラが奏でる生の音楽に触れ、感動を体感していただきました。車椅子で参加の方も、重い障害のある方も、職員の方も、クラシックの名曲の演奏に深い感動を覚え心行くまで楽しまれた様子でした。

一般的にクラシックコンサートは静かに席に座って鑑賞するというマナーが求められますが、このコンサートではそうした作法にとらわれず、思い思いの感じ方や表現を全身に表していた演奏中も離席が自由にできます。トイレ休憩や緊張が高まった心を少し落ち着けたのち再入場もできるという開催趣旨を事前にお知らせしたことで、利用者の皆さんに安心して心地よく演奏を楽しんでいただきました。

参加するまでは、「クラシックなんてきいたことないよ」と不安の声がご利用者から聞かれましたが、演奏が始まると少し慣れない様子だったご利用者も、意外と知っている曲が流れたのをはじめに咬いておられた言葉が嘘のようにコンサートを真剣に聴き入っておられました。特に、「パイレーツ・オブ・カリビアン・メドレー」ではそれまでタキシード姿で指揮をしていた指揮者さんが海賊の姿になり、まるで会場全体が大きな海賊船のような雰囲気になりました。そして軽快な音楽が流れだし、ご利用者の皆さんはそれまでよりもいっそう目を輝かせながら体全体を使っ

参加施設の皆さんの声



参加者による花束贈呈

され利用者が多くみられました。また、聴覚過敏の方や緊張しやすい方もいらつしやるので、表情が不安そうなおられました。

今回は2回目ということで、どの利用者さんも穏やかに参加され、静かに聴いておられる方が多かったというのが私の印象です。私が担当している利用者さんは普段、作業場内を動き回られる方や、ご自分の思いを大きな声で表現される方が多いのですが、そのような方も今回のコンサートでは静かに座って演奏を聴いておられました。こうした体験を積み重ねることで、障がいのある方々の地域での暮らしの場が広がるのではないかと感じることが出来ました。

（京都ライフサポート協会 土田涼）

（ワークセンターHailee！
支援スタッフ 坂本光司）



▲アンコールで盛り上がるホール内



▲外観（くーべ）



外観（ブチ・ポッシュ）

シリーズこんにちは

広報部員施設訪問記

◀作業風景（ブチ・ポッシュ）



▶作業風景（くーべ）

社会福祉法人 京都身体障害者福祉センター
京都いたはし学園

訪問者：三 好 真 弘（テンダーハウス）

また、定期的に学習活動も行われており、施設外での研修に参加したり、施設内で面接の練習等を行っているそうです。就職に向けての学習だけではなく、電車・バスの乗車マナーやスマートフォン（特に

直接就職につながる実習も、食品加工系のお仕事や清掃業務が多いそうです。食品加工では、焼鳥屋、学生食堂、回転ずし店、精肉店等の多くのお店で実習をされています。清掃業務も、携帯ショップ、カラオケ店、企業の食堂、大学キャンパス等で行っているそうです。

利用者さんは、パン工場の「くーべ」、菓子工場の「ブチ・ポッシュ」にて製造・軽作業を行い、訓練することで就労を目指しています。また、施設外では、伏見区総合庁舎にあるカフェ「こぼん」にて喫茶業務を行ったり、高齢者施設、京都テルサ、ひと・まち交流館等で販売をされています。他にも、近所の水路の清掃や、伏見社会福祉総合センターの館内清掃作業も委託を受けて定期的に実施されているそうです。

平成20年1月に京都市ふしみ学園から独立した京都いたはし学園は、今年でちょうど10年目になるそうです。就労移行支援・就労継続支援B型・指定特定相談支援・就労定着支援事業を行っており、利用者さんは移行が11人、B型が17人利用されているということです。

入道雲がもくもくと空にのぼっている夏の午後、京阪丹波橋駅から北西へ閑静な住宅街を10分程歩いて行くと、施設が見えてきました。今回の「シリーズこんにちは」は、社会福祉法人京都身体障害者福祉センター「京都いたはし学園」様にお邪魔しました。出迎えていただいたのは副園長の河村様。まず施設の概要を説明していただき、その後施設の中を案内していただいていた様子を見せられました。



▶人気No.1丹波大納言あんぱん

次に、パン店舗に案内していただきました。店内から作業をしている工房の様子が見えるため買い物をするお客さんも親しみをもって買えるのだらうと思います。販売棚には食パンやバケットをはじめ、ピザパンやカレーパンな

頃から取引先へ納品や販売に出ているそうです。

さて、概要をうかがった後はいよいよ施設内を案内していただきました。まずはパン工場の「くーべ」にお邪魔しました。中に入った第一印象は「清潔だなあ」というものでした。澄んだ空気のなかにほんのりと小麦粉のにおいがして、ピカピカに磨かれたステンレスの作業机が目に入ってきました。その机には大きな板が敷かれており、そこで利用者さんが作り方の書かれたシートに沿って小麦粉や水などを計量して配合し、パンの生地を作っておられました。午後2時過ぎだったのですが、この時間帯は明日に焼くパンの下準備をすることが多いらしいです。通常は朝の時間帯が一日分のパンを焼くので非常に忙しく、11時

SN（S）の使用上の注意といった、社会の基本的なルールを身につけてもらう機会にもなっているということでした。

以上の成果として、毎年3、4人程度の利用者さんが就労されているそうです。就労された利用者さんの定着支援も行われています。年に2回OB会があり、年末に忘年会、夏頃にBBQ等の集まりを、支援者の方が企画し開催されているということでした。就職されてからは余暇の過ごし方が難しいということなので、OBの方も喜ばれていると話されていました。



焼き立てシフォンケーキ▶

最後に、別館にある菓子工房「ブチ・ポッシュ」にお邪魔しました。ここは「くーべ」に比べて人数も少なくとても静かでした。そのため忙しい雰囲気も苦手な利用者さんがここで作業されるそうです。訪問時は利用者さんと支援者の方が二人で協力し、ヘラをつかってカップにケーキの生地を入れる作業を丁寧にされていました。横の棚を見ると、かわいい猫のクッキーがオーブン天板に並べられていました。支援者の方によるとこの猫のクッキーは人気で特別注文があるそうです。話をうかがっている途中で、ちょうどシフォンケーキが焼き上がりました。オーブンからふわふわの

ケーキを取り出され、工房中にこぼしい香りがただよっていました。

取材を終えた帰り道、空を見上げるとやはり多くもくと入道雲がのぼっていました。たが、それが焼きたてのパンのように見えて、お腹が少しグーと鳴りました。利用者さんと支援者さんが協力して焼き上げたパンやケーキ。この記事を読んだみなさんにもぜひ召し上がっていただきたいものです。

最後になりましたが、ご多忙のなか快く取材にご協力いただいた副園長の河村様をはじめ、作業中にも関わらず温かく迎えてくださった皆様、本当にありがとうございました。

どの調理パン、かわいい動物のかたちをしたチョコパンなどの菓子パンといった豊富な種類のパンが並べられていました。地域の方が常連としてよく買いに来てくれるそうです。人気No.1のパンは「丹波大納言あんぱん」だそうです。またこだわりの自家製ぶどう酵母フランスパンは、これを目当てに買いに来るお客さんもいるのだそうです。

最後に、別館にある菓子工房「ブチ・ポッシュ」にお邪魔しました。ここは「くーべ」に比べて人数も少なくとても静かでした。そのため忙しい雰囲気も苦手な利用者さんがここで作業されるそうです。訪問時は利用者さんと支援者の方が二人で協力し、ヘラをつかってカップにケーキの生地を入れる作業を丁寧にされていました。横の棚を見ると、かわいい猫のクッキーがオーブン天板に並べられていました。支援者の方によるとこの猫のクッキーは人気で特別注文があるそうです。話をうかがっている途中で、ちょうどシフォンケーキが焼き上がりました。オーブンからふわふわの

Spotlight

加盟事業所での工夫を凝らした活動（支援）、ご利用者の特色ある活動、力を発揮して仕事に打ち込んだり、地域での暮らしを実現されていたり…。そのような皆さんにスポットライトを当てるコーナーです。
(このコーナーでは会員の皆様からの記事掲載希望を随時受け付けております)

はなのき通所



はなのき通所では、週2回、少人数単位による活動を行なっています。



紙漉きサークル

紙漉きサークルは、牛乳パックと花紙をミキサーにかけ、コンテナに入れて漉き枠を使って漉きます。できた紙は、創作活動に使っています。

よろずサークル

よろずサークルは、その名の通りよろずの活動をしています。外気浴、足浴もすれば、ミシンのペダルを押して職員がミシン掛けを行なう創作活動なども行なっています。



からだサークル

からだサークルは、利用者それぞれがリラックスしたり、楽しめたりできる大型遊具を使う活動とボウリングや紙相撲などのゲームを行なっています。



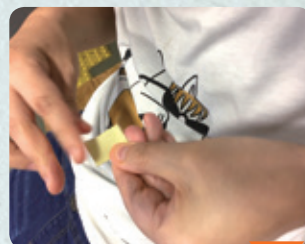
大照学園



普段から紙に折り目を付け、その折り目の所で破り、2回折るという行程で紙折をしてられます。ご本人にとって落ち着く活動で、黙々と丁寧に…
暗い空間でも、目を瞑ってでも出来てしまう神業です。
紙質にも好みがあり、質感・破る音・折り合わせる感触等を味わい、同時に心地よさを感じておられる様です。

そんな紙折を創作活動に繋げている最中です。
台紙に糊付けしていき…さて何が出来るようになるでしょう？

京都の夏の風物詩、大文字です。ご本人の心地よい活動を発展させながら、より輝ける日々へ繋げていけると願っています。



① いつもの紙折り風景



② 紙折りをしたもの



③ 貼り付け中



④ 完成作品

地域支援部会 部会長

修光学園テニアコニアセンター

センター長 森 亮

京都知福協・第7回地域支援部会 開催報告

う次期報酬改定に向けての検証と要望が必要です。

8月2日(木) 京都社会福祉会館にて部会が開催されました。当日は8法人10名の参加と、樋口会長も出席のもとで会議形式で進めました。府内各所の事業所の共通課題として、ご利用者の重度高齢化への対応、職員世話人確保と質の向上は毎回のことながら複数の意見が挙がり、深刻さを増している状況です。

中央情勢報告として、中西副会長より厚生労働省資料等を用いて、主に本年4月改正関連について報告がありました。中でも「自立生活援助」や「日中サービス支援型」といった新メニューについてはまだ全国規模でも事業実施に至っている事業所も少なく、これから京都府や府内各市町村が定める基準で事業所指定が進むと考えられています。「自立生活援助」では担い手の確保や報酬の低さ、利用期限が設けられていることの課題があり、また、「日中サービス支援型」は平日昼間の支援が必要となるため、支援員の配置基準が手厚くなりますが、正規職員を配置するには十分でない報酬体系と言えることから、日本知的障害者福祉協会を含む各種団体が要望していた改正内容とは程遠い内容であり、早くも議論が進んでいると言

う。さらに2月5日に京都社会福祉会館にて開催する運びとなりました。ご案内の折には是非とも多くの支援者の皆様の参加をお待ちしております。



平成30年度 会議・研修・行事案内

4月

監査 4月17日

総会 4月18日

5月

近畿地区総会および第1回役員会

5月9日 開催地:兵庫

クラシックコンサート実行委員会

5月16日

第23回クラシックコンサートの集い

～京都市交響楽団演奏会～

5月23日

近畿地区障害者支援施設部会代

表者会議

5月31日

全国定時評議員会

5月13日 開催地:東京

6月

第1回役員会 6月21日

全国知的障害関係施設長等会議

6月2～3日 開催地:東京

第1回研修委員会 6月4日

7月

第1回広報部会 7月12日

第1回政策委員会 7月20日

共催研修打合せ(研修委員会)

7月25日

近畿地区会長会・政策委員会

7月26日 開催場所:グランヴィア京都

8月

第7回地域支援部会 8月2日

9月

第2回広報部会 9月6日

全国グループホーム等研修会

9月3～4日 開催地:愛媛

第1回相談支援部会 9月11日

事業所見学会(於:みねやま福祉会)

9月14日

共催研修

対象:転職を経て福祉現場で働く方

内容:障害者支援施設において大切にしたい価値観を共有し、「支援」について学び合う

9月19日 開催場所:ハートピア京都

近畿地区第2回役員会

9月20日 開催場所:グランヴィア京都

第2回役員会 9月27日

幼児の集い 9月28日

10月

相談支援・就業支援セミナー

10月10～11日 開催地:神奈川

障害者支援施設部会施設長会議

10月12日

全国障害者スポーツ大会

10月13～15日 開催地:福井

第3回広報部会 10月16日

全国会長・事務局長会議

10月25～26日 開催地:東京

児童発達支援部会やんちゃフェスタ

10月27日

京都府・京都市との懇談会 未定

11月

地域支援セミナー

11月5～6日 開催地:神奈川

行事・文化部会 風船バレー大会

上旬

全国知的障害福祉関係職員研究大会

11月14～16日 開催地:山口

近畿地区施設長会議

11月26～27日

開催場所:神戸メリケンパークオリエンタルホテル

日中活動支援部会全国大会

11月29～30日 開催地:神奈川

12月

児童発達支援施設運営協議会

12月3～4日 開催地:富山

リスクマネージャー養成研修会

12月5～7日 開催地:東京

地域支援部会研修会

12月7日 開催地:南丹市

第14回近畿地区グループホーム等職員研修会

12月13日 開催地:兵庫県

第3回役員会 未定

近畿地区第3回役員会

未定 開催場所:グランヴィア京都

近畿地区会長・事務局長会 未定

1月

障害者支援施設部会全国大会

1月30～31日 開催地:岩手

2月

地域支援部会研修会 2月5日

第55回近畿地区知的障害者関係施設職員研修会

2月14～15日

開催場所:和歌山県・ホテルパローム紀の国

ミニコンサートの集い 2月25日

福祉フォーラム 未定

3月

部会協議会・全国支援スタッフ代表者会議

3月5～6日 開催地:東京

第4回役員会 未定

近畿地区第4回役員会

未定 開催場所:グランヴィア京都

〈予告〉(予定)

第58回知的障害福祉関係職員研究大会 in 京都

2020年9月23～25日

2017年度

(2018年3月31日現在)

収支決算書

京都知的障害者福祉施設協議会

収入合計	18,185,417
支出合計	12,515,232
差引残額	5,670,185

(残額は次年度へ繰越)

事業振興基金	1,094,609
--------	-----------

◆収入の部

(単位：円)

大区分	中 区 分	予算額	決算額	比較増減	摘 要（積算内訳）
会費収入		8,870,000	9,122,800	252,800	
	1. 日本知福協会会費収入	3,250,000	3,300,000	50,000	
	2. 近畿知福協会会費収入	190,000	194,000	4,000	
	3. 京都知福協会会費収入	5,430,000	5,628,800	198,800	
補助金収入		200,000	213,860	13,860	
	1. 京都府補助金収入	90,000	90,000	0	クラシックコンサート補助金
	2. 京都市補助金収入			0	
	3. 日本知福協補助金収入	110,000	123,860	13,860	地方会助成
寄付金収入		0	0	0	
	1. 寄付金収入	0	0	0	
委託金収入		1,800,000	1,800,000	0	
	1. 委託金収入	1,800,000	1,800,000	0	京都知的障害児者生活サポート協会
協賛金・助成金収入		1,100,000	1,600,000	500,000	
	1. 協賛金・助成金収入	1,100,000	1,600,000	500,000	京都新聞・生活サポート協会 クラシックコンサート・福祉フォーラム
雑収入		200,120	200,075	△ 45	
	1. 雑収入	100	200,064	199,964	11月全国生産活動・就労支援部会剰余金20万円・預金利息64円
	2. 研修参加費収入	200,000		△ 200,000	
	3. 事業振興基金利息収入	20	11	△ 9	
積立金取崩収入		1,000,000	1,000,000	0	
	1. 事業活動積立金取崩収入	1,000,000	1,000,000		クラシックコンサート準備資金取崩
繰越金		4,248,682	4,248,682	0	
	1. 繰越金	4,248,682	4,248,682	0	
収入合計		17,418,802	18,185,417	766,615	

◆支出の部

(単位：円)

大区分	中 区 分	予算額	決算額	比較増減	摘 要（積算内訳）
分担金		3,740,000	3,816,800	76,800	
	1. 日本知福協会会費支出	3,250,000	3,300,000	50,000	事務局経由分
	2. 近畿地区知福協会会費支出	190,000	194,000	4,000	@2,000×97
	3. 府市施設協議会分担金支出	300,000	322,800	22,800	府施設協240,000 市施連協82,800
事務局費		5,961,000	4,915,261	△ 1,045,739	
	1. 職員雇用費	2,700,000	2,300,000	△ 400,000	
	2. 役務費	300,000	201,641	△ 98,359	郵送料、振込手数料、電話代
	3. 需用費	400,000	362,062	△ 37,938	事務用品、印刷代、ホームページ作成費等
	4. 備品費	100,000	46,958	△ 53,042	会計ソフト・ネームランド
	5. 旅費	900,000	765,580	△ 134,420	部会協議会、関係団体等会議出席、事務局等旅費
	6. 会議費	300,000	108,300	△ 191,700	役員会会場費等
	7. 慶弔費	50,000	10,000	△ 40,000	
	8. 雑費	100,000	25,840	△ 74,160	支援機構会費10,000 保険料5,840他
	9. 賃借料	723,000	706,080	△ 16,920	事務所賃借料43,000/月 コピー機17,280/月×11月
	10. 業務委託費	388,000	388,800	800	弁護士顧問料
部会活動費		3,170,000	3,018,364	△ 151,636	
	1. 広報部会活動費	700,000	653,524	△ 46,476	「知福協だより」等
	2. 行事・文化部会活動費	2,470,000	2,364,840	△ 105,160	クラシックコンサート・風船バレー・幼児のつどい
委員会費		1,300,000	533,805	△ 766,195	
	1. 政策委員会費	100,000	13,080	△ 86,920	
	2. 研修委員会費	900,000	508,737	△ 391,263	4/15福祉フォーラム、10/30共催負担金他
	3. 人権・倫理委員会費	250,000	3,162	△ 246,838	
	4. 支援スタッフ委員会	50,000	8,826	△ 41,174	
種別部会費		290,000	231,002	△ 58,998	
	1. 児童発達支援部会費	20,000	0	△ 20,000	部会研修会
	2. 障害者支援施設部会費	50,000	14,180	△ 35,820	部会研修会
	3. 日中活動支援部会費	60,000	51,400	△ 8,600	部会研修会
	4. 生産活動・就労支援部会費	40,000	121,894	81,894	全国生産活動・就労支援部会兵庫大会剰余金20万雑収入へ
	5. 地域支援部会費	40,000	28,330	△ 11,670	部会研修会
	6. 相談支援部会費	80,000	15,198	△ 64,802	部会研修会
積立金支出		0	0	0	
	1. 事業振興基金積立金支出	0	0	0	
	2. 事業活動積立金	0	0	0	クラシックコンサート準備金積立なし
予備費		2,957,802	0	△ 2,957,802	
支出合計		17,418,802	12,515,232	△ 4,903,570	

京都知的障害者福祉施設協議会 2018年度組織体制

〈会 長〉 樋口 幸雄 [(福)京都ライフサポート協会]
 〈副会長〉 塩見 正人 [(福)福知山学園]
 中西 昌哉 [障がい者地域共生拠点イマジ]

〈地域連絡会〉

京都府連絡会代表

樋口 幸雄 [(福)京都ライフサポート協会]

京都市連絡会代表

中西 昌哉 [障がい者地域共生拠点イマジ]

〈特別委員会〉

政策委員会

委員長 樋口 幸雄 [(福)京都ライフサポート協会]

研修委員会

委員長 菊池ゆかり [居宅介護わくわく]

人権・倫理委員会

委員長 廣幡 顕一 [京北やまぐにの郷]

〈事業部会〉

行事・文化部会

部会長 濱田 康寛 [障害者支援施設みすなざ学園]

副部会長 川西 恒 [飛鳥井ワークセンター]

広報部会

部会長 森 亮 [修光学園ディアコニアセンター]

副部会長 西田 武志 [障害者支援施設 翼]

〈児童発達支援部会〉

障害児入所支援、障害児通所支援

部会長 渋谷 千鶴 [(福)平安養育院]

副部会長 脇田 宣 [(福)白川学園]

〈障害者支援施設部会〉

障害者支援施設

部会長 山代 浩史 [(福)南山城学園]

副部会長 土居 雅幸 [京都市洛西ふれあいの里更生園]

〈日中活動支援部会〉

生活介護、療養介護、自立訓練、地域活動支援センター

部会長 谷村 敏幸 [ぐんぐんハウス]

副部会長 辻村 憲隆 [城陽作業所]

副部会長 森井 詳太 [乙訓ひまわり園]

〈生産活動・就労支援部会〉

就労継続支援B型、就労継続支援A型、就労移行支援

部会長 藤田 公智 [ワークセンターHalle!]

副部会長 野村 尊実 [(福)菊鉾会]

〈地域支援部会〉

共同生活援助、自立訓練(宿泊型)、福祉ホーム、

居宅介護、重度訪問介護、行動援護、移動支援

部会長 森 亮 [修光学園ディアコニアセンター]

副部会長 中西 昌哉 [障がい者地域共生拠点イマジ]

副部会長 庄林 幸子 [丹波桜梅園 みずほ寮]

〈相談支援部会〉

相談支援事業、就業・生活支援センター、重度障

害者包括支援

部会長 須河 浩一 [相談支援センターいづみ]

副部会長 守本 明 [天ヶ瀬さぼうの家]

〈監 事〉

丹 良一 [こぐま園]

平田 捷郎 [障害者支援施設あんどびしゃ]

〈顧 問〉

矢野 隆弘 [(福)松花苑]

〈支援スタッフ委員会〉

委員長 佐々木 直 [横手通り43番地「庵」]

〈事務局〉

樋口 杏

～公益財団法人 日本知的障害者福祉協会での役職～

副会長 樋口 幸雄 (近畿地区知的障害者施設協会 会長)

障害者支援施設部会 委 員 山代 浩史

日中活動支援部会 委 員 辻村 憲隆

地域支援部会 委 員 中西 昌哉

相談支援部会 委 員 須河 浩一

人権倫理委員会 委員長 中西 昌哉

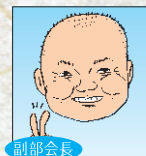
編集出版企画委員会 委 員 森 亮

(掲載は組織表の並び順です)

平成30年度 京都知福協広報部会 部員紹介



部会長 森 亮
修光学園ディアコニアセンター



副部会長 西田 武志
障害者支援施設 翼



今西 重人
あけぼの学園りけい寮



平田 龍盛
あしたーる工房



岸見 健二
あまた翠光園



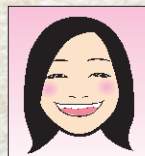
西山 知美
宇治川福祉の園



池内 拓真
きぎょうの杜



山本 賢
京都市大原野の杜



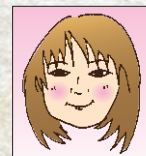
綾木 冴子
大照学園



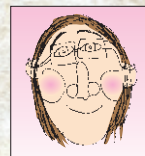
三好 真弘
デンターハウス



高橋 正明
はなのき通所



天野 真弓
ひなとり学園



今井 遥
修光学園

ちょっと おしえて 京都府災害派遣福祉チームとは？ 京都 DWAT (ディーワット) = Disaster Welfare Assistance Team

京都府では、災害時の避難所において、避難生活を送る上で想定される要配慮者(※)の体調や心身状況の悪化などの二次被害を防ぐため、平成26年度に福祉専門職で構成するチームを編成しました。府内の各地域に12チームを編成しており、約120名がチーム員として登録しています。(平成30年3月時点)

チーム員は、災害時には避難所で要配慮者のニーズ把握のための聞き取りや、市町村・医療療養班・保健活動班などと連携した要配慮者の支援などの福祉的な目線で現地の方々に寄り添った支援を行うほか、平常時には研修や訓練への参加、災害に備える平常時の地域づくりへの協力など、災害時に備えた活動を行っています。

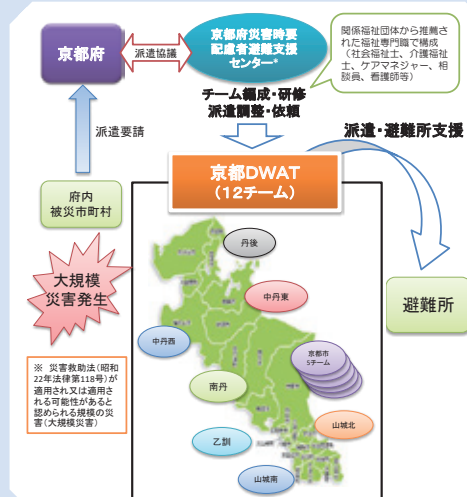
※要配慮者とは…災害対策基本法第8条2項第15号に規定する「高齢者、障害者、乳幼児その他の特に配慮を要する者」。なお、避難所で避難生活を過ごす中で、体調を崩される方も含まれます。

これまでに平成28年熊本地震や平成30年西日本豪雨への災害時派遣で実績を残した他、地域の防災訓練等に参画し、地域の皆様と連携した取り組みを行っています。

いつどこで何が起こるか分からない昨今。今後もそんな災害に対して、平常時から地域の繋がりを大切にしたい災害に強い地域づくりが進んでいけば…と願うばかりです。

(大照学園 綾木冴子)

参考：京都府災害派遣福祉チーム(京都 DWAT)/京都府ホームページ



今年の夏は猛暑が続いたり、台風が多く発生したりと過酷な夏が続きました。特に先の西日本豪雨では、岡山・広島・愛媛を中心に他府県でも大きな被害をもたらしました。私の職場の近くでも橋の陥没があり、現在も通行止めが具体的な復旧目処が立っていません。それに伴い路線バスが迂回ルートで運行し近くのバス停が利用できなくなり、歩いて15分程かかるバス停を利用しなければならぬ状況です。職員は自家用車等で通勤していることもあり特に気にかけることもなく生活していましたが、夏の帰省期間で高齢のご家族が施設にいられた際には混乱する場面がありました。

昔と違い田舎ではバスを利用することが減りました。実際、地域の多くの高齢者は自動車を使って生活されています。市議会でも普段あまり利用されないコミュニティバスや路線バスのあり方について議論されていました。

が、今回の件で公共交通機関を守っていく大切さと、そのためには普段から地域の人が利用しやすい公共交通機関のあり方を考えなければならぬことを実感しました。

(あけぼの学園りけい寮 今西重人)

編集後記

